

## 平成 25 年度 大阪女子短期大学高等学校 学校評価（報告）

### <学校評価>

#### 1. 目指す学校像

#### 2. 中期的目標

○学習指導

○生活指導

○進路指導

○教員研修

○その他の領域

**【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】**

#### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

### <学校関係者評価>

◆近隣地区代表との意見交換

◆学校関係者評価を受けて

### <アンケート報告>

◆生徒・保護者アンケート

平成 25 年度 大阪女子短期大学高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

- ・ 教員が、女子校に勤めていることに誇りと自信を持てる学校。
- ・ 生徒が、本校に通学していることに誇りと自信を持てる学校。
- ・ 教員一人一人の個性を活かしつつも、組織としてのまとまりと強さを持つ学校。生徒一人一人が、大切な存在であることを実感し、日々成長していることを感じる学校（「創」前向きに生きる力）。
- ・ クラブ活動などを通して近隣市民、中学校から、応援をもらえる学校。保護者と共に、子供の成長を喜べる学校。
- ・ 募集定員を充足できる学校。早期に、総定員 600 名を達成する。
- ・ 女子校としての存在意義が明確な学校（語学教育が充実し、進路先が広がる学校）。
- ・ 豊かな出口（難関大学への継続合格）を実現する。

2. 中期的目標

○学習指導

- (1) 基礎的実学の重視（「礎」生きていくうえに必要な学力）。全ての生徒に基礎学力をつける。
- (2) 自己点検評価を、より良い授業の実践に向けて活用する。
- (3) 授業技術の向上を目指し、公開授業・研究授業を実施（兄弟姉妹校の協力）。
- (4) 茶華道、表現の授業を通し、建学の精神を具現化する（「嗜」人生を豊かにする教養）。
- (5) 柔軟な思考力を育てる授業、「生命を大切にする授業」に着手。全ての教科科目で取り組む。
- (6) 「点の学習」をつないで「線の学習」にする。
- (7) 学習合宿を通して、自ら学ぶ力を育てる。

○生活指導

- (1) 思いやりと礼節。礼儀正しい生徒を育てる。挨拶の飛び交う学校（「礼」社会に必要な礼儀とマナー）
- (2) 服装、髪型違反生徒の指導。教員の意思統一のもと、保護者の理解と協力を得て、進めていく。
- (3) 生活指導の基本は授業。分かるまで教える授業を継続する。
- (4) 通学指導の継続。（駅～学校間の指導を行うことで、地元市民にもアピール）
- (5) 清掃活動を通して良い教育環境を確保する。
- (6) ポイント制だけでなく、教師自身の力量による生活指導の実践。
- (7) いじめを解決できる学校を目指す。

○進路指導

- (1) 併設短期大学と連携し、意欲と意識を持った生徒を進学させると共に、短期大学と連携をとりながら、卒業まで生徒を指導する。
- (2) 短大との連携事業（単位先取り）を充実させる。
- (3) 学園併設大学（大商大、芸工大、至学館大）との連携（出前授業やビジネスアイデア甲子園への参加など）で、複数名を進学させる。
- (4) 勉強クラブを発展させる。自主的な学習活動定着にとどまらず、制度として教職員の協力体制を作る
- (5) 生徒保護者が納得する進路結果につなげる。
- (6) 新奨学金制度適用生徒の希望進路達成。
- (7) 総合的な学習で行っている進路学習の再構築。
- (8) 予備校講師による、進学セミナーを活用する。

○教員研修

- (1) 技術の向上と修得、新しい知識・概念・理念の理解、問題解決能力向上、発想力・創造力の練磨など、研修の目的は多数あるが、特に本校で大切なのは、「行動・態度の変容」であると考えている。
- (2) 授業技術、生徒指導の基本を再認識する。生徒を見守る眼力は育ちつつある。また、組織としての動きを強化する必要。
- (3) 成功体験を重ね、若い教員の力を引き出し、自らの手でより良い学校をつくる動きをつくる。
- (4) 授業力向上を図るため、外部研修受講を奨励する。

○その他の領域

- (1) 地元小中学校対象の書道研究会は、藤井寺市以外の教育委員会協賛のもと、一層発展させる。
- (2) 保護者向けの情報発信（学年通信など）を、方法を含め研究し充実させる。気軽に家庭訪問を行い、理解と協力を得られるようにする（「絆」保護者と共に学校生活を作る）。
- (3) 家庭向けメール配信機能の利用。
- (4) 近隣地区清掃活動の継続。
- (5) 教育目標達成に保護者・同窓生の協力が必須になっている。まず、保護者会活動に多くの保護者が参加できる工夫をする。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

[自己評価アンケートの結果と分析(平成26年2月実施分)]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 全体的な傾向として、上級生になるほど、すべての項目で満足度が高くなっている。 昨年度の比較で満足度が高くなったのは、資格取得、校則の妥当性、授業のわかりやすさ、教師への信頼、進路情報、模試への取り組み、行事、設備。逆に、満足度が低下したのは、学校の雰囲気、クラスの楽しさ、不満度。</p> <p>○保護者 例年とあまり変化はない。ただし、日常生活、進路指導、生活指導、学校施設一定数の不満を持つ保護者が多数ではないが存在する。家庭で生徒が話していることを反映していると思われる。 しかし、8割以上の多くの人は、指導が適切だと感じられている。</p> <p>○教職員 生活指導面では、指導の強弱だけでなく問題発見の段階で、教師間の意識のばらつきがあり、それが生徒からの不満になっている。 学習指導面では、公開授業、授業アンケート、模試問題の研究などが進み、生徒はそれを実感している。授業力向上の取り組みの成果と捉えている。ただし、生徒の持っている学力から見ると、生徒にかかる負荷がやや不足しているのではないかと。 進路指導面では、総合的な学習の時間の有効活用で、難関大学受験を希望する生徒が出てきた。ただし、系列大学、併設短大とは、制度的なつながりに重点があり、質的なつながりをいっそう深化させることが必要。</p> <p>[分析] 生徒は、上級生になるほどわれわれの指導を適切なものとして受け入れる傾向がある。これは、「丁寧な指導」の成果と考えている。また、近年、本校では入学者数も増えるとともに、生徒の質的变化もあり、これに適切に答えているかを常に問い直さねばならない。 4年制大学を目指す生徒たちが増える傾向となっていて、学習面においても生徒からの要求水準が高まり、よりの確な進学指導や、不平等のない生活指導が求められている。ある程度は、我々の努力が実った結果となっているが、一層の改善が求められる。 保護者では、例年と変わらないという結果となった。しかし、不満があることは事実なので、具体的な改善要求を元に、学校側が柔軟に適応する必要がある。</p>	<p>日常生活について、学校の雰囲気、クラスの雰囲気は約60～70%の生徒が、良いと感じている。しかし、雰囲気が良くないと感じている生徒も一定数いるため、今後具体的な改善内容を見出し、実行に移す必要がある。クラス経営においては、各担任が個性を發揮して特徴のあるクラス作りをしている。が、クラス経営の根底に学年共通、あるいは学校共通の確認事項を設け、これを守りながら個性を發揮する必要がある。副担任制を謳っているが、教員数の関係で十分に機能しない状況があり、見直しが迫られている。</p> <p>授業のわかりやすさにおいても、約50～60%は問題ないと感じているが、残りの生徒は少しわかりにくさを感じている。熱意を持って教えるとともに、もう少しわかりやすい授業、興味を持てる授業を模索する必要がある。</p> <p>進路指導について、学年が上がるごとに、指導内容は適しているとの評価が増える。しかし、1・2年生でも約7割は進路指導が適していると感じている(3年生は90%以上)。このままの形態で進路指導を行い、学校側として指導を強化できるところを模索し、生徒全体の満足度を上昇させることができるようにする。</p> <p>生活指導について、こちらも学年が上がるごとに、指導内容は適しているとの評価が増える。ただし、一部で教員毎に指導内容に違いがあるなどの不満も出てきており、教員間での生活指導における意思統一が必要であると考えられる。また、生徒は規則を守っているつもりでも、教員視点では校則を守ることができていない生徒も一部であるが存在する。この生徒に関しては、規則にのっとり、指導をしていく必要がある。全教員による朝の挨拶運動では、挨拶を返す生徒が増えて好ましい傾向と捉えているが、保護者にはその実態が伝わっていないようで残念である。</p> <p>学校施設に関して、主に空調に関することが多いが、地球環境にも配慮した適切な温度を設定し、これで進めていくことを考えている。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

目 標	中 期 的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学 習 指 導	正しい授業の実践	単元テストの改善	生徒アンケート	まだ教科ごとの取り組みである。組織全体としての点検が必要。	
	授業改善	授業アンケート実施と自己点検	生徒アンケート	2学期以降に複数回実施。生徒の要望に応えるよう授業を改善した。	
	新奨学金制度適用生徒の	学習成績向上策の展開	外部模試 進路実績	進路指導部、教務部を中心に、緻密なデータを示し、啓発している。また、外部予備校とも連携し、一定の実績を残すことができた。	
	学力伸長	授業改革案継続実施	研修参加率	外部開催の教科研修会に積極参加した。	
		語学教育の充実	授業形態 英語検定	マルチメディア教室の活用が進んでいる。 外部講師と連携し、英検合格実績を伸ばした。	
	各事業の充実	運用の改善と検証	生徒アンケート	進学セミナーは、業者と連絡を取り合っ、生徒の状況を確認しながら改良した。	
	学習活動の継続	授業の工夫	研修参加率	外部研修会で学んだことを生徒に還元している。	

		勉強合宿	生徒アンケート	約30名が参加。改善点も多数あるが、所期の目標を達成した。
生活指導	クラブ活動の活性化	特待生制度活用	制度利用者数 生徒アンケート	SSクラブのバレー部では、特待生制度が有望選手の獲得に直結している。また、有望選手が集まることで、次代の選手が注目している。
	挨拶の励行	早朝校門挨拶運動の継続	教員当番表 生徒アンケート	全教員協力して実施できた。
		通学指導	教員当番表 生徒アンケート	校門の外にまで教員が出て指導できるようになった。その結果、近隣住民とのコミュニケーションも増加した。
	規範意識の高揚	丁寧な指導	保護者アンケート 生徒アンケート	学年生指部員を中心に、生徒が納得するまで指導した。
	元気な生徒	クラブ活動の活性化	保護者アンケート 生徒アンケート	放課後も学校に残って活動する生徒が増えている。特に不活性化していたクラブが、活動的になり、大会等に出場するようになった。
	制度だけに頼らない指導	生徒と向き合う	保護者アンケート 生徒アンケート	ポイント制に頼らず、説得できる教員が増えてきている。しかし、まだ指導のばらつきがあるため、全教員の意識統合が必要である。
	丁寧な連絡	懇談会の改善	保護者アンケート 生徒アンケート	懇談会で出た課題を集約して、運営委員会で報告。
進路指導	高大連携の推進	大学からの出前授業拡大	教科「総合的な学習」の計画	進路指導部を中心に実施。
	(系列大学との連携)	ビジネスアイデア甲子園への参加	教科「総合的な学習」の計画	2年生全員が取り組んだ。次年度は大商大からの準備講座を導入する。
	併設短大との協力体制	単位先取り授業の積極推進	進学実績	選択科目として導入。履修者の多くが短大へ進学。
		併設短大との教育連携策(中退者減少)	短大からの提示資料	単位取得状況のデータをもとに協議。元担任として指導した。
	総合的な学習の時間の活用	進路学習再構築	進路媒体業者の活用	所轄を教務部から進路指導部に移したことで、より効率的な計画になった。
	日常的学習習慣の定着	大学進学セミナーの充実	生徒アンケート	粘り強く受講する生徒は少数であるが、確実に成果につながっている。
	進路先充実	勉強クラブの検証と発展	参加者数	形態を工夫改善した結果、参加者が増加している。
教員研修	教員の行動変容	教員研修会の活用	研修会出席	外部研修会複数回出席したうえで、授業力向上をテーマに校内研修会実施。
	授業スキルアップ	公開授業、研究授業	公開授業	公開授業実施後の検討会に重点を置くよう改良。
	委員会活動	委員会からの提言を増やす	新企画有無	学習合宿の実現などにつながった。
	これまでの活動の検証	教員研修会の活用		未実施。
その他の領域	入学者数の一層の増加	生徒・保護者の満足度向上	アンケート	3年生(卒業学年)クラブ活動を除く全ての項目で満足度が高い。ただし、1、2年生の満足度は、昨年比低下している。
	学校評価の発展	地域と中学校に支持される学校	出前授業	出前授業実施校1割増。近隣地区からの受験が増加。信頼が定着してきている。
	保護者会・同窓会活動活性化	保護者への通信(発信)	各種通信	各学年、学級で通信を発行。(年間30回のペース)。HPの更新回数も増加。
	保護者への働きかけ強化	保護者会活動企画の追加変更	参加者数	実施時期、内容を改善したが、顕著な変化はなかった。
	地域との連携	クラブボランティアの推奨		文化祭模擬店売り上げを被災地に寄付するクラスがあった。
		書道研究会の充実	参加者数	参加者数は微増。継続して受講する小・中教員が多く、その中では次第に評価が高くなっている。

## 学校関係者評価 懇談会議事録

日 時：平成26年9月19日（金）午後2時00分～午後3時30分

平成26年10月6日（月）午後1時00分～午後2時30分

場 所：事務棟会議室

出席者：藤井寺区長会会長(10/6のみ)、春日丘自治会会長(9/19のみ)、春日丘区長、校長、副校長、  
教頭、事務局長(10/6のみ)、事務長、事務職員

はじめに、校長より挨拶と以下の現状報告がなされた。

本校での取り組みとしまして、生徒指導については、遅刻、身嗜みについては、大幅に改善されています。尚一層、生活習慣の確立・校則の遵守の指導に力をいれていきたいと考えております。進路指導については、進路実績としまして、過去に国立大の合格者が出たことで、受験しようとする生徒が出るようになってきています。また、26年度より更に効果的な指導を行うため、教務部と進路指導部を統合いたしました。学習指導については、「点の学習」をつないで、「線の学習」にすることを目標としております。英検対策について、英語教員が学習指導を行って来ました。2級取得を目指し、26年度からは、英検対策講座を開設し、外部講師より指導していただいております。学習合宿は、昨年より継続して行っており、自ら学ぶ力を育てたいと考えております。また、放課後、生徒たちの勉強スペースが足りなく、自習室を設けました。アンケート結果については、上級生ほど、ほとんどの項目で満足度が高くなっております。最終学年をより良い充実した年になっておりますが、一部の項目で2学年の満足度の一時的な低下について、検証を行う必要があると考えます。近隣との関係については、積極的に取り組んでいきたいと考えております。生徒指導が必要な場合についても、即実行しております。近隣地区清掃活動については、継続して行っていきたいと考えております。

### 出席者からの意見と本校の回答

意見（自治会長）・・・他校と比較すると進学先は見劣りする。それなりに工夫して特色を出す努力が必要なのではないでしょうか。

回答（校長）・・・進路について、生徒が志願する第一希望が実現できるようになりつつあると感じています。

意見（自治会長）・・・資格取得に不満が大きい。検定受験者を増やすため、その必要性を理解させ動機づけをする工夫が必要なのではないでしょうか。大阪の街を歩くと、東南アジア系の観光客であふれている。そんな中で、英語の必要性をどう示すか。

回答（校長）・・・満足度が高くないと予測される項目についても、管理職が意図して教員へ見ていただくため挙げています。教員一丸となって、英検対策の強化をしていくことで改善されると考えています。その他、情報検定、漢字検定にも取り組んでいます。

意見（区長会会長）・・・1年生から3年生に進むにつれて満足度が上がっている。教育の成果とみることもできるが、憧れて入学する生徒が少ないという見方もできるのではないかと。第1希望で本校を選ぶ生徒を増やすことが重要ではないでしょうか。

意見（自治会長）・・・大学卒業後の追跡を行い、どのような職業についているのかも調査すべきで、これを広報の素材にするべきではないでしょうか。

回答（校長）・・・ 大いに参考にします。

意見（自治会長）・・・コース制の見せ方について、目的が明確でないように受け取れます。「5年間で資格取得を支援する」といった、ロングタームで考えた指導ができていますか。制度として高短連携があることを明確に示し、成果についても示すべきではないでしょうか。

回答（校長）・・・ 大阪府下でコース制でない学校は、本校含めて2校だけでした。本校のコース制は、入学後に選択するというものです。生徒の希望進学先の意思を尊重し、特別編成クラスをつくり、また、短大コースは5年間で資格を取得でき、高校在籍中に、単位先取りができ、短大へ行ってもゆとりがもてます。看護系、理系については、希望する生徒に対して、教員が個人指導を行ってきました。今まで行ってきた本校の教育指導を目に見える形にしたのが、コース制です。特待生が増えたことで、文系進学にも力を入れております。ゆったりとしたコース制となっています。

回答（校長）・・・ 27年度よりコース制を導入し、明確に打ち出しています。1年生から短大単位の取得が可能となり、短大の短い時間にゆとりが持てます。高短連携は、前年度より進んでおります。

意見（自治会長）・・・特待生制度の有用性を丁寧にアピールする必要があるのではないのでしょうか。

回答（校長）・・・ 特待生になると3年間有効となっております。特待生は、専願者のみとなっておりますが、併願受験されていても、一定の期日までに専願へ切替をしていただくと特待生となります。切替による特待生は、30名ぐらいいます。成績中位を特待としているので、生徒数の6割ぐらいが特待生となっております。そのせいか、穏やかといいますか、元気になったと感じます。特待内容については、入学手続き時の負担を軽減する内容としています。

意見（区長）・・・ 地域との連携について、清掃活動等、他にも拡大できないか。藤井寺街づくり協議会行事に短大生は協力していただいております。高校生も参加することで、地域とのつながりが強化できると同時に、高校生の意識が変わるのではないのでしょうか。

回答（校長）・・・ 生徒会、関係クラブに投げかけます。

意見（区長）・・・ 近隣住民との調和について、聞くべきは聞く、取り入れるべきは取り入れるという毅然とした態度が必要。学校の機能を果たすために必要なものか、冷静に判断する。教師が冷静に判断する姿勢は、生徒にも伝わり、良い効果がある。

意見（区長会会長）・・・生徒指導について、根負けしない、息の長い指導をお願いしたい。

意見（区長会会長）・・・生徒の性格は変化していますか。

回答（教頭）・・・ 手がかかる生徒が増えています。

意見（区長会会長）・・・近年、短高生は、良くなっていると認識しております。

意見（区長会会長）・・・来年、戦後 70 年になりますが、現在の生徒達は、理解できているのか。学校教育の中で、国家観の勉強をしていただきたい。

意見（区長会会長）・・・VB の成績はどうか。

回答（校長）・・・大阪でベスト 4 になります。

意見（区長会会長）・・・VB 活躍していただき、藤井寺に活気をもたらして欲しいです。

意見（区長）・・・ 広報戦略について、卒業生で有名人を起用する。シンボルキャラクターを作る等、工夫の余地があるのではないのでしょうか。

意見（区長）・・・ 生徒の安全について、昨今、子供を巻き込んだ事件が多発しています。普段から注意、指導をしていただきたいです。

※ 関係者評価を受けて感じたことは、地元住民の皆様の学校に対する関心の深さです。自分達の住む町にある学校をより良くしたい、皆で支えたいという強い思いを感じました。

## 学校関係者評価を受けて

校内評価委員会

- ・ 沢山の意見を寄せていただき感謝している。ご意見の大部分は、苦情というよりも要望。地元の高校に対する熱い思い、あるいは期待を感じる。
- ・ 本校が進めてきた改革、改善策を評価し、好意的に見てくれている。
- ・ 進学実績については、以前から指摘されている。本校なりに努力し、少しずつ実績を上げつつある。生徒の第一希望を実現することで、結果として進学校として評価していただけるよう努力したい。今後もあたたかく見守っていただけたら有り難い。
- ・ 資格取得についても、ご指摘の通り。ただし、本年度からは、漢字検定、英語検定、茶道に加え、情報検定も取り入れた。
- ・ 大学卒業後の進路追跡については、大学での生活による部分が多く、必ずしも本校を卒業した結果とは言えない部分もある。ただし、広報戦略として使える要素もあるので研究したい。
- ・ 藤井寺にある学校に通学しているのだから、単に通学駅として見るのではなく、藤井寺を知り、藤井寺を愛する人に育ってほしいと、毎回指摘されている。その延長で、歴史教育について触れられた。グローバル化が叫ばれる時代だからこそ、アイデンティティを大切にしなさいとの指摘と受け止めている。
- ・ 評価委員全員が、関係者評価をしていただいた委員の皆様の暖かい気持ちを大切にしたい。今後の教育に生かすことで、期待に応えたいと決意を新たにしました。

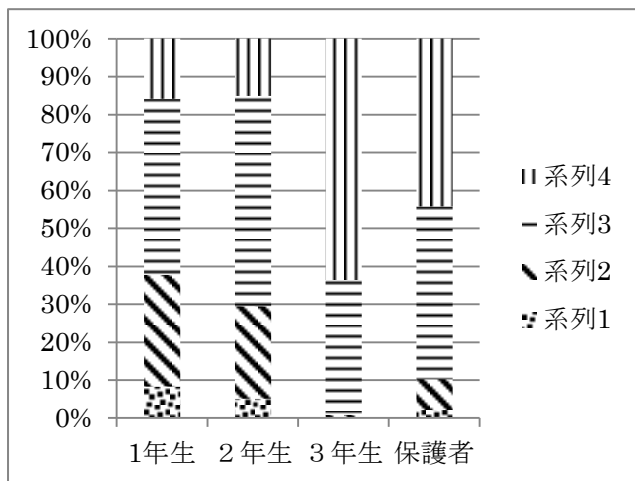


平成 25 年度 生徒・保護者アンケート結果（平成 26 年 2 月実施・回収）

それぞれの設問に、4～1 で答えてもらいました。

4 そう思う      3 ややそう思う      2 あまり思わない      1 思わない

1：学校の雰囲気が良い。



雰囲気を良く感じない1年生が、昨年度比で16%増えた。

(H25 37.4% H24 21.5%)

雰囲気を良く感じない2年生も、昨年度比で8.2%増えた。

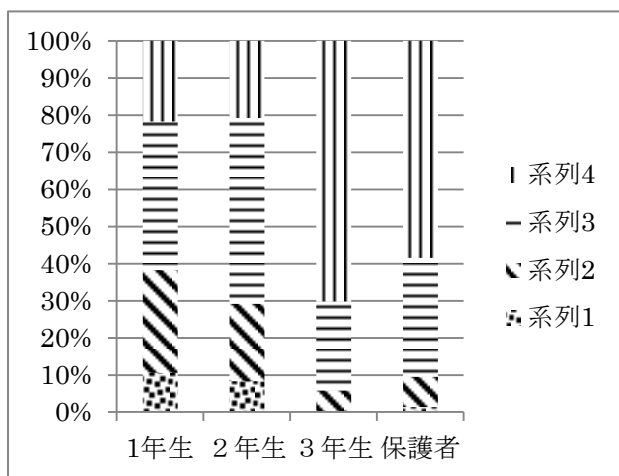
(H25 22.8% H24 14.6%)

雰囲気を良く感じない保護者も、昨年度比で5.4%増えた。

但し、3年生は、雰囲気を良いと感じている(99.1%)。

学校の雰囲気を高める要素を見出し、その点を向上させていく必要がある。

2：入学させてよかった。



1学年で不満を抱える生徒が、昨年度比で2倍となった。

(H25 38.0% H24 19.0%)

2学年で不満を抱える生徒も、昨年度比で6.6%増えた。

(H25 22.9% H24 16.3%)

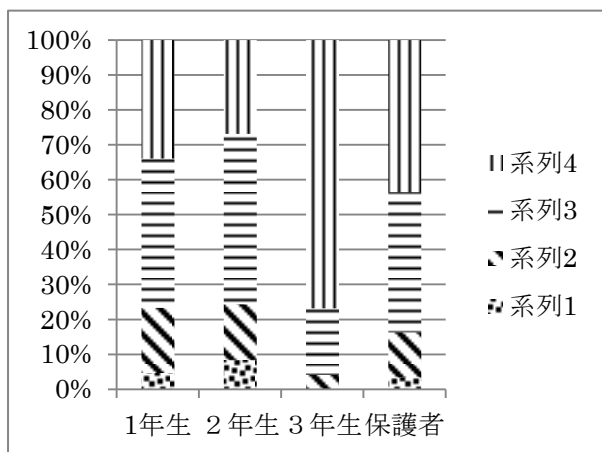
不満を抱える保護者も、昨年度比で3.9%増えた。

(H25 9.5% H24 5.6%)

ただ、3学年は、94.2%と高い満足度を持っている。

年々、入学して良かったと考える生徒が、減少してきているように思われる。

3：お子さんは、自分のクラスが楽しいと感じている。



1学年で不満を抱える生徒が、昨年度比で9.3%増えた。

(H25 23.4% H24 14.1%)

2学年で不満を抱える生徒も、昨年度比で5.1%増えた。

(H25 18.9% H24 13.8%)

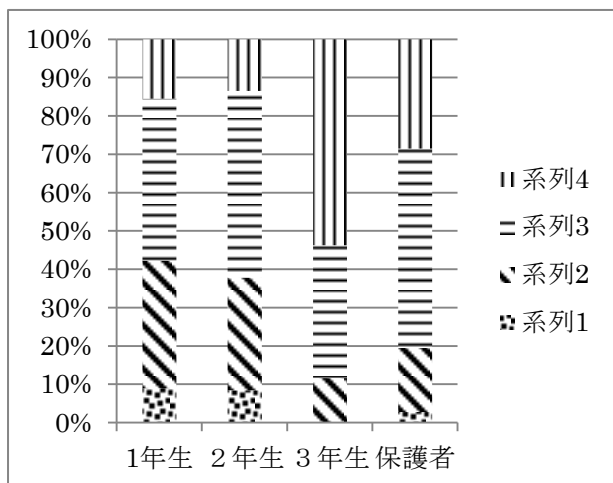
3学年は、95.9%と高い満足度を持っている。

また、不満を抱える保護者は、昨年度比で0.5%減少した。

(H25 16.2% H24 16.7%)

良好な人間関係の構築を困難に感じる生徒が、増えてきているということだろうか。

4：本校の教員は教育熱心である。



1 学年で不満を抱える生徒が、4割。

(H25 41.5% H24 41.1%)

2 学年で不満を抱える生徒が、3割。

(H25 29.4% H24 20.3%)

3 学年で不満を抱える生徒が、1割。

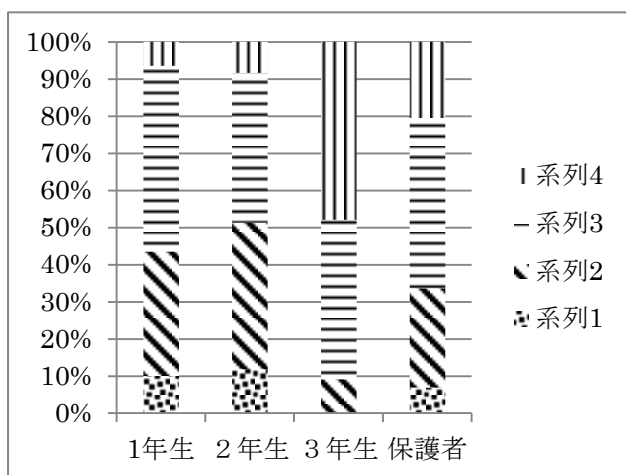
(H25 11.6% H24 28.4%)

不満を抱える保護者が、2割。

(H25 18.9% H24 17.2%)

学年を経るにつれ、教員と生徒の関わりが深まることがわかるが、1～2年段階から生徒に積極的に関わっていく姿勢が必要である。

5：おさんは授業が分かりやすいと感じている。

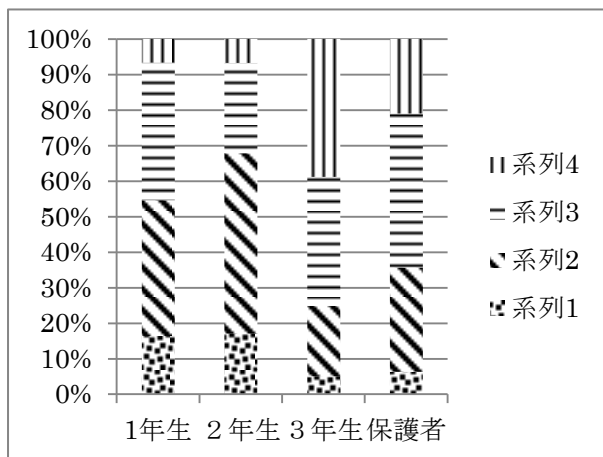


三学年は授業が「わかりやすい」と感じている生徒が大幅に増えている(約30%増)

一、二学年ともに昨年のより「まったく分からない」との回答が増え、特に2学年は「教員が教育熱心」と感じている割合に比べて授業がわかっていない数が多いので学習指導要領教改訂の影響もあると思われる。

また放課後まで教科担当がいらないこともあり、その点に不安を感じているという声もあった。

6：多様な資格が取れるので良い。



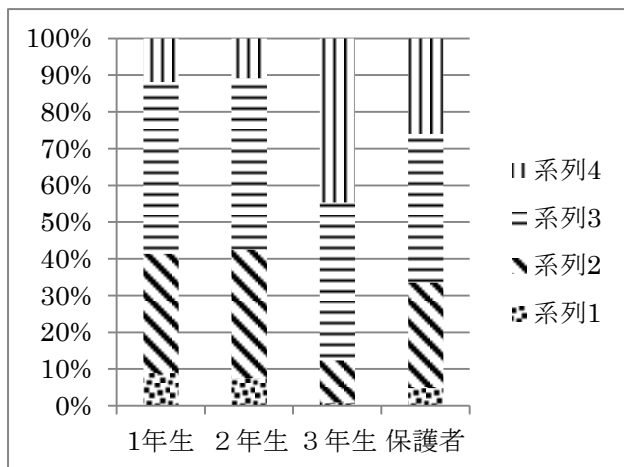
昨年度と比べ生徒の反応は概ね高評価である。

特に漢字検定は「朝漢字」など、資格取得への取り組みの強化が合格率を大幅に上げた。

また資格に対する生徒への呼びかけも積極的であったことが生徒の意識を高めたと思われる。

一方で保護者の満足度が昨年と変っていない。保護者に対しての情報提示が不足しているとの声もあり、今後の改善点である。

7：お子さんは授業に意欲的に取り組んでいる。

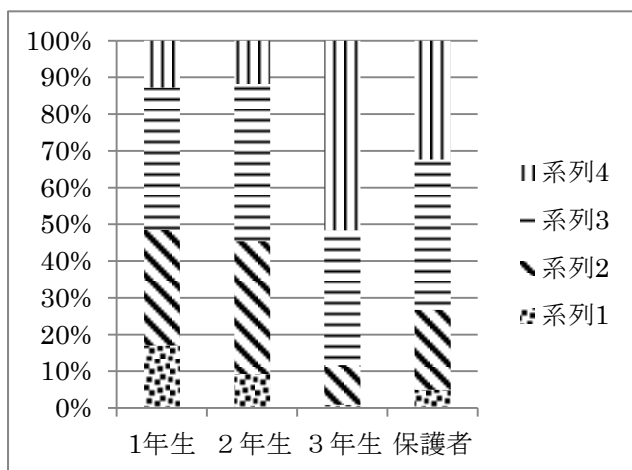


三学年は昨年度に比べ「意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が約30%増。

問五と同じ傾向で二学年の意識が一学年よりも低く授業へのモチベーションをどうあげるのが今後の課題である。

一年生も「意欲的に取り組んでいない」と回答している割合が多くなっている。

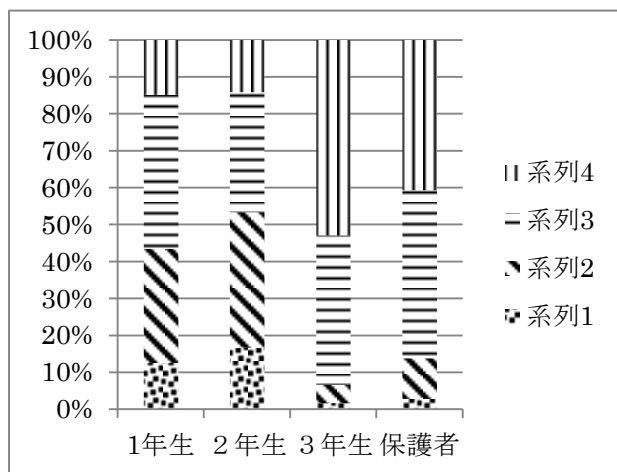
8：先生はお子さんの悩みを親身になって聞いてくれる。



学年があがるにつれ教師と生徒の信頼感が上がってきている。

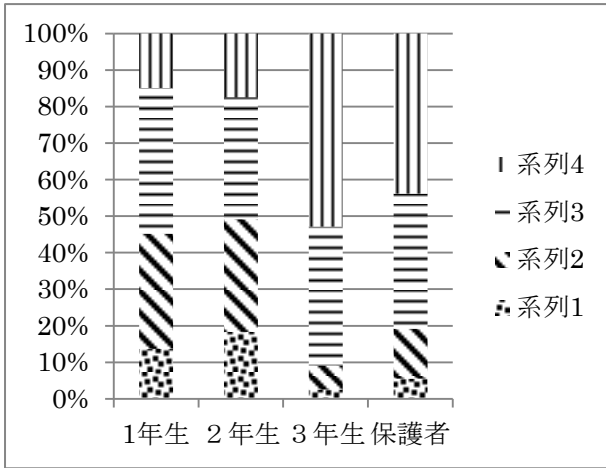
ただし昨年度保護者の「そう思わない」と答えた割合が1.4%だったことに対し今回は4.7%とあがってきている。

9：生徒に対する学校の規則は妥当である。



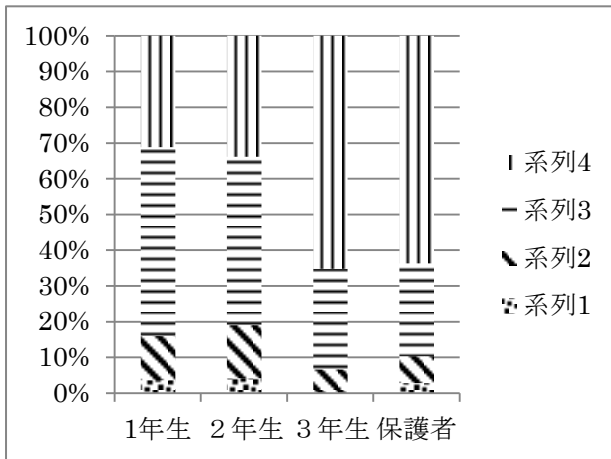
昨年より、3年生は約10%増加し、全体の約90%が良い雰囲気だと感じている。対照的に、2年は昨年から約10%減り、約半数が学校の雰囲気が良くないと感じている。1年生、保護者は昨年と同様であった。具体的な意見としては、耐寒の服装の際、タイツの上に靴下や、レッグウォーマー等を使用させて欲しい。また、式典において、カーディガンの着用も一考して欲しいと意見があった。

10：お子さんは学校の生活指導について納得している。



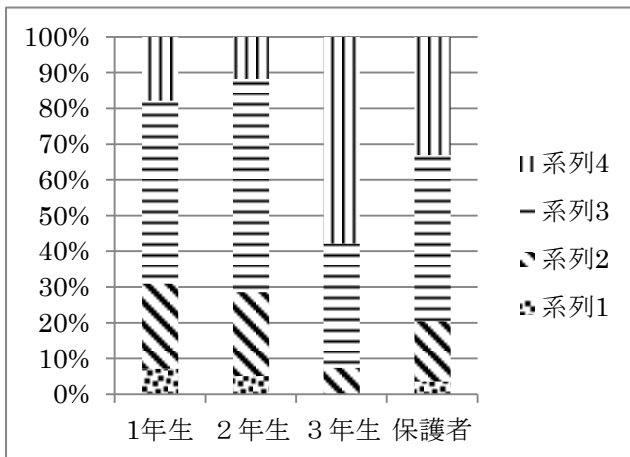
3年生は昨年度より10%増加し、約90%が妥当だと感じている。対照的に2年生は昨年度より10%減り、約半数しか納得しているものがないという状況となった。1年生、保護者は昨年と同様であった。具体的には、違反をしているにもかかわらず、指導する教員としない教員がいるため、との記述があった。

11：お子さんは学校の規則を守っている。



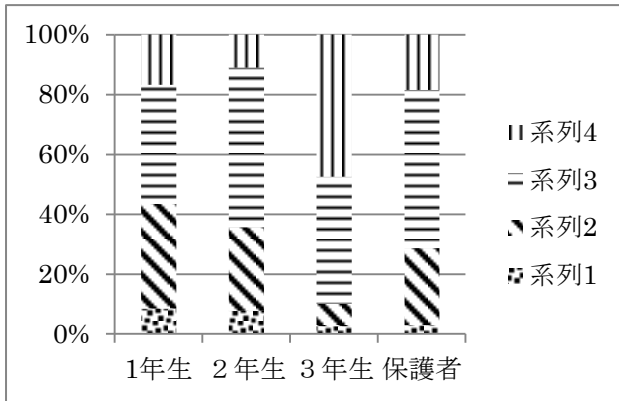
どの学年も保護者も昨年度とほぼ同様であった(微増あり)。校則を守っていないと自覚している生徒がいるため、認識を改めさせる必要がある。また、教員視点では、もう少し校則を守らせる必要があると感じている。

12：進路に必要な情報は適切に提供されている。



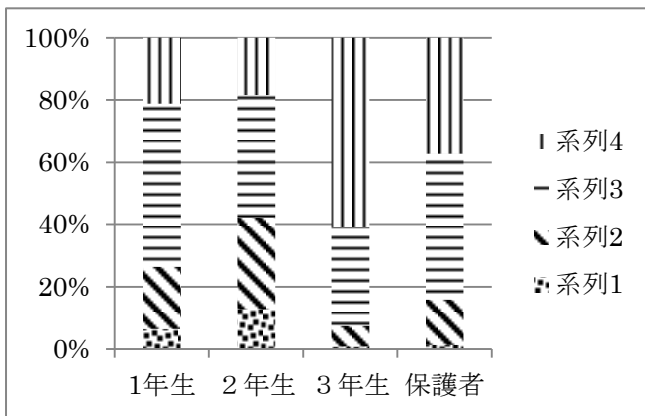
3年生では、昨年より約10%増の約90%が適切だと感じている。対照的に2、1年生では、昨年度より10%ずつ減少し、どちらも約70%の生徒が進路の情報が適切だと感じている。具体的な内容に関しては指摘がなく、漠然と感じているのかもしれない。どのような情報が必要なのか把握する必要がある。

1 3 : 授業・模擬試験が進路に対応している。



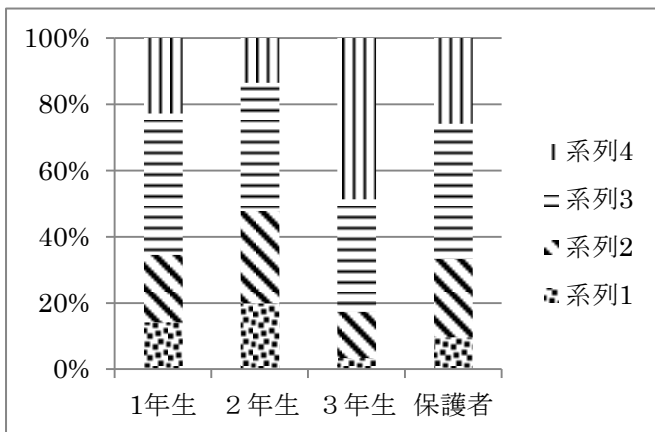
昨年度は、上級生ほど悪い反応であったものが、今回は、上級生ほど、授業や模擬試験が進路に対応していると答えている。

1 4 : 学校行事は楽しく充実している。



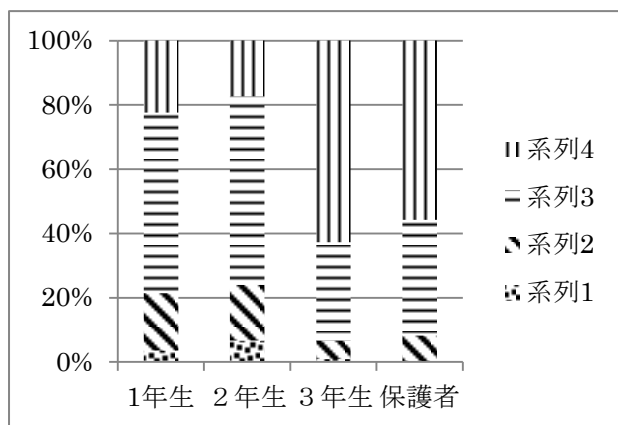
3年生の回答が、昨年度と大きく異なる。そう思う(30%⇒60%)。これに比べると、2年生の回答がやや悪いほうに変化している。

1 5 : 部活動は活発で充実している。



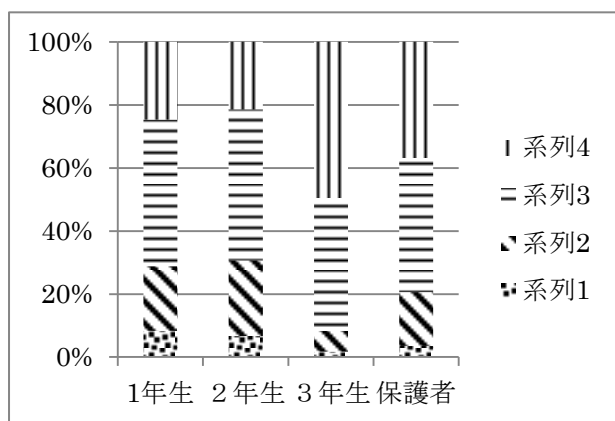
14 の設問と同様の傾向がある。

16：校内の施設・設備はよく整備されている。



全学年共に、昨年度より「そう思う」「ややそう思う」が増加。トイレの改修などが好印象を与えている。

17：挨拶のあふれる学校である。



3年生で、昨年より良い結果。ただし、保護者の受け止めは、昨年より悪化(そう思う、ややそう思うの合計が90%⇒80%)

アンケート項目が限られているなかでの総括となる。昨年度との比較で、全体としてみると3年生(卒業生)の満足度が上がっている。上級生になるほど満足度が上がることは喜ばしいことではあるが、逆に1, 2年生の満足度が下がっている。

学校改革、教務内規の改定などの結果、教員から生徒への要求水準が上がっているのに対する反応とも見ることができる。また、生徒の質が向上したことを教員側が正確に受け止め切れていないため、例えば、授業の進度や深まりに不満があるとも取れる。同じ理由で、生徒の問題意識がこれまで以上に高まっていて、「不満はないが楽しくもない」という低反応型の生徒から、「不満はあるが楽しい」と考える生徒が増えているとも見ることができる。自由記入欄の意見からは、ポイント制による生徒指導において、教員間での指導のバラつきに対する不満がある。

授業での生徒の集中度の向上、服装などの違反行為が減り、校門での挨拶もできるようになり、よい雰囲気 학교になっていると感じているが、生徒・保護者の感想からは読み取れない。

自由記入欄に見える保護者の辛辣な意見は、少数ではあるが生徒の声でもある。これらは、生徒が家庭で話している内容を反映している。丁寧な指導を通して、納得させる努力が必要である。

これまで以上に生徒・保護者の声を聞きながら、生徒の実態に合わせた指導を進める必要がある。